

わ ね サークル仲間

読書サークル

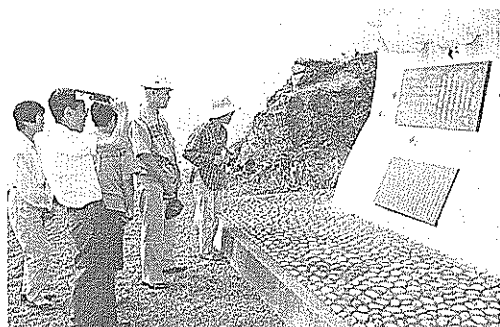
中央公民館には三教室十九サークルがあり、文化祭への参加などいろいろな活動が行われています。年齢、職業はさまざまですが、それぞれサークル仲間の和が広がって、毎回楽しく受講している皆さん。その触れ合いの場を紹介いたします。

今回は読書サークルにおじゃましました。

◇ ◇

読書サークルは読書はもろんのこと、文学に関係のある史跡巡りをしたり、講師の先生を迎えて話を聞いたりするなど、幅広い活動をしています。

その一環として九月十七日



に『浜千鳥』や『叱られて』などの童謡で有名な安芸市出身の作詞家、弘田龍太郎の歌碑巡りを行いました。メンバーたちは熱心にメモを取ったり童謡を口ずさんだりと、楽しいひとときを過ごしていました。

読書サークルは気さくな岡信雄さんを中心に現在部員は十人。短編などを読んでその感想をみんなで話し合っています。毎月第二・四火曜日に中央公民館で開かれています。

読書の好きな方、一緒に参加しませんか。



お父さんの役割 (存在感)

— 子どもと遊ぼう —

家庭教育学級専任講師 秦泉寺 千津



子育ては両親の共同作業といわれますが、現実はどうでしょうか。

とりわけ父親のかかわり方を見てみると、「子どものことは母親にまかせておけばいい」と逃げ腰で、存在感が薄い家庭もあるようです。

子どもを育てる上で、父親も母親と同じように、大きな役割を持っています。

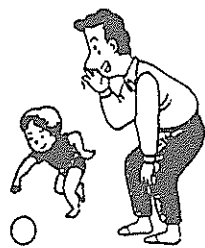
お父さんの役割の中で重要なのは、子どもに男の大人の行動の仕方、考え方を教えることです。それには、お父さん自身が自分の仕事に誇りを持って働いていること、自分の人生に生きがいを持つことが大事になります。

そのお父さんの人間的な魅力、自信のある行動が、子どもにも、「お父さんは、立派に生きていく」という尊敬の念を植え付けていきます。

また、お母さんは、お父さんの価値、家庭にとって、か

けがない存在であること、子どもに教えていく必要があります。

お母さんの日常行動に、お父さんを大切にし、尊敬する気持ちがあれば、子どもにも、「お父さんは、我が家にとって大事な人だ」と認識するでしょう。



男の子でも女の子でも、幼児期から少年期にかけては、身体を動かす遊びが大好きです。ボール投げをしたり、家の中の馬乗り、相撲など子どもたちは遊びの相手になっ てくれることを、お父さんに期待しています。

遠くに出かけなくても、肩車で散歩したり、父子で声を掛け合って遊び、心を通わせることができたら、たとえ短い時間であっても子どもの心に温かく残るものがあると思います。

お父さんは、仕事の関係で子どもと一緒に過ごす時間が少ないのですから、量の少ないのを質で補うようにし、家にいる時間が短くても、いざというときに、家族の相談にのってあげられるような信頼と存在感のあるお父さんでありたいものです。

また、お父さんがリーダーになって、楽しく遊ぶことにより子どもは、お父さんの存在感を認め、そのことが子どもの社会性を育てることに繋がります。

また、ルールのある遊びにも興味を持つようになるので、トランプやゲームなどを一緒にやるのもよいことです。

お父さんがリーダーになって、楽しく遊ぶことにより子どもは、お父さんの存在感を認め、そのことが子どもの社会性を育てることに繋がります。